



全通研学習書研修会 (2020.12.14)

国語科はどう変わるか

早稲田大学 教育・総合科学学術院

幸田国広

◎本日の内容

—学習書の「これから」を考えるために—

1. 新学習指導要領の特徴と背景
2. 高等学校国語科改訂のポイント
3. 共通必修科目の内容と特徴
4. 単元デザインと〔知識及び技能〕
5. コロナ禍で加速するICTの波

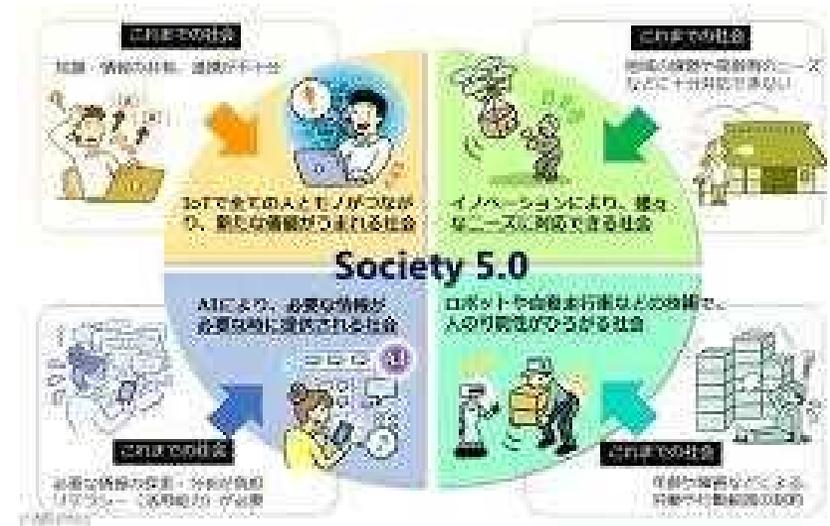
1. 新学習指導要領の特徴と背景

○人工知能の発達、少子化、移民政策、環境問題、地域経済等

○「予測困難な社会」の到来を見据えた「資質・能力」の育成

○「社会に開かれた教育課程」

○「主体的・対話的で深い学び」



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



主体的な学びとは

- ・学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、**見通し**を持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を**振り返って**次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ・子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

中央*

深い学びとは何か

- ・**習得・活用・探究という学びの過程**の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を**相互に関連付けてより深く理解**したり、**情報を精査して考えを形成**したり、問題を見いだして**解決策**を考えたり、思いや考えを基に**創造**したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。
- ・子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を**活用・発揮しながら物事を捉え思考**することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。**教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導**していくことが求められる。

中央教育審議会答申(平成28年12月)

対話的な学びとは

- ・**子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かり**に考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ・身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の**多面的**で深い理解に至るためには、**多様な表現**を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

育審議会答申(平成28年12月)

○探究的な学習の前景化

このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

(『総合的な探究の時間解説』 1
頁)



高等学校の教科・科目構成について

(各学科に共通する各教科及び総合的な探究の時間)

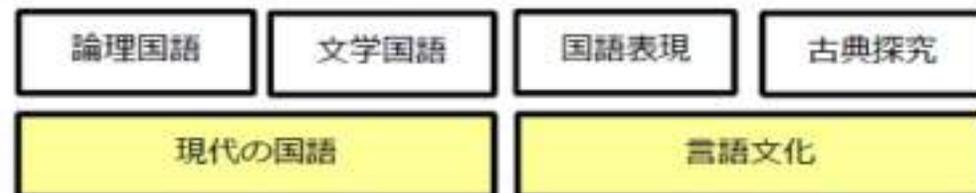
平成30年5月15日
中央教育審議会
初等中等教育分科会
資料1-2

…共通必修

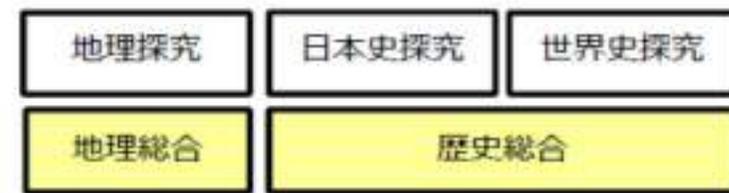
…選択必修

※ グレーの枠囲みは既存の科目

国語科



地理歴史科



公民科



数学科



理科



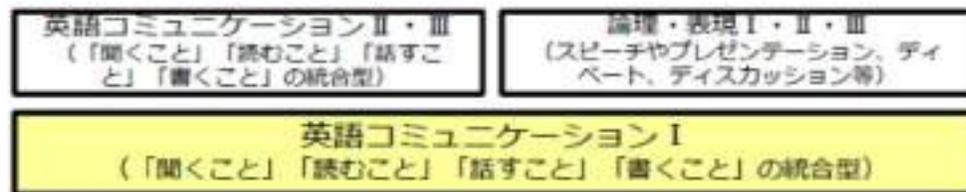
保健体育科



芸術科



外国語科

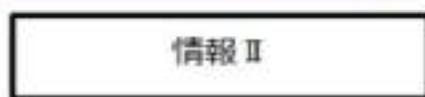


※英語力調査の結果やCEFRのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

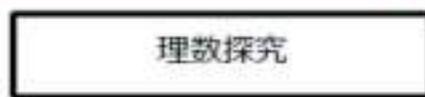
家庭科



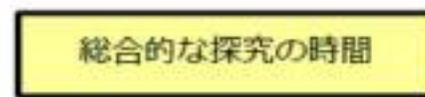
情報科



理数科



総合的な探究の時間





2. 高等学校国語科改訂のポイント

○国語科に期待されるもの

- 言語は生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、**言語能力は全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるもの**
- 言語能力を育成する中核的な教科である**国語科を要として各教科等において言語活動の充実を図ること**

(「総則」解説、121～122頁)

高校国語科 の課題

(2016, 中教審答申)

○教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと、話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書こと」の領域の学習が十分に行われていないこと。

○古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらないこと。

新高等学校学習指導要領 国語科の科目構成

《現行学習指導要領》

国語総合
(4単位)

国語表現
(3単位)

現代文A
(2単位)

現代文B
(4単位)

古典A
(2単位)

古典B
(4単位)

《新学習指導要領》

※ () 内は標準単位数

現代の国語(2単位)

○実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目

(例)

- ・話し合いの仕方や結論の出し方を工夫し、結論を得たり多様な考えを引き出したりするための議論や討論をする学習
- ・論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開、説明の仕方を工夫しながら説明資料をまとめる学習
- ・論理的な文章や実用的な文章を読んで、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら内容を解釈したり、推論を働かせて自分の考えを深めたりする学習

論理国語(4単位)

○実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目

(例)

- ・批判的に読まれることを想定し、立場の異なる読み手を説得するために、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、論拠の吟味を重ねたりして、自分の主張を明確にしながら論述する学習
- ・論理的な文章や実用的な文章を読んで、結論を導く論拠を批判的に検討したり、内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めたりする学習

国語表現(4単位)

○実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う力の育成を重視した科目

(例)

- ・相手の同意や共感が得られるよう、表現を工夫してスピーチをしたり、他者のスピーチを、論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、自分の考えを深めたりする学習
- ・読み手の同意や共感が得られるよう、適切な根拠や具体例を効果的に用いたり、文章と図表や画像などを関係付けたりしながら、企画書や報告書などを作成する学習

言語文化(2単位)

○上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目

(例)

- ・我が国の言語文化に特徴的な語彙や表現の技法を用いて短歌や俳句をつくったり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで随筆などを書いたりする学習
- ・我が国の伝統や文化をテーマにした論説文や随筆、古典や古典を解説した文章、古典を翻案した小説、近代以降の文学的文章などを読んで、ものの見方、感じ方、考え方を捉えて内容を解釈したり、我が国の言語文化について考えたりする学習

文学国語(4単位)

○深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の育成を重視した科目

(例)

- ・文学や映画の作品、それらについての評論文を参考にすることで、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮し、読み手を引き付ける文章になるよう工夫しながら、小説や詩歌を創作する学習
- ・小説や詩歌、随筆などを読んで、文体の特徴や効果について考察したり、作品の内容や形式について評価して書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする学習

古典探究(4単位)

○生涯にわたって古典に親しむことができるよう、我が国の伝統的な言語文化への理解を深める科目

(例)

- ・古典としての古文及び漢文を読んで、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えたり、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら解釈を深めたりする学習
- ・関心をもった事柄について、関連する複数の古典の作品や資料などを読んで、自分のものの見方、感じ方、考え方や、我が国の言語文化についての自分の考えを深める学習

共通必修科目

選択科目

新学習指導要領の構造的特徴

1 目標

2 内容〔知識及び技能〕

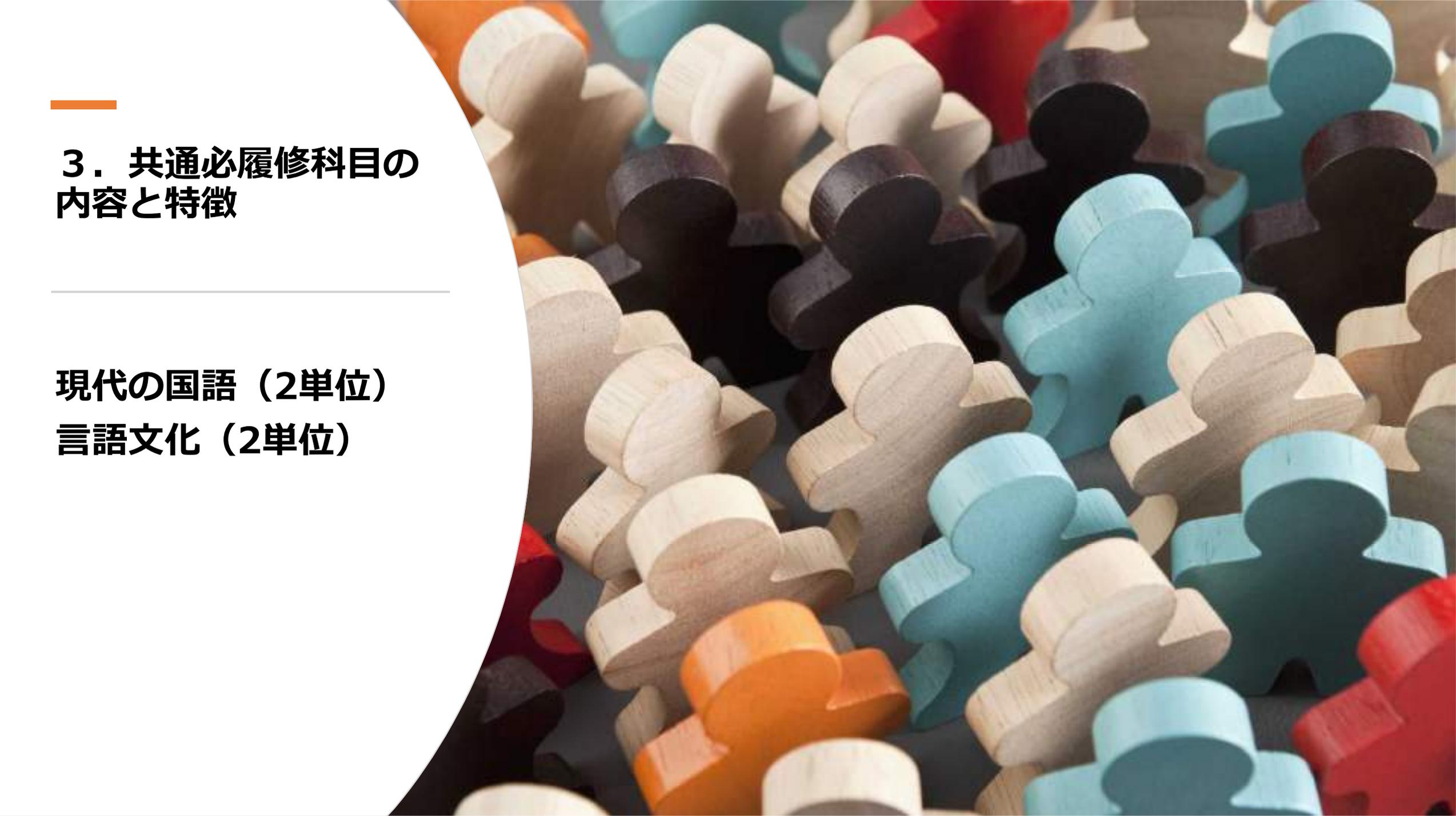
- (1) 言葉の使い方や特徴に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

2 内容〔思考力・判断力・表現力等〕

- 「A 話すこと・聞くこと」(1)指導事項(2)言語活動例
- 「B 書くこと」(1)指導事項(2)言語活動例
- 「C 読むこと」(1)指導事項(2)言語活動例

3 内容の取り扱い

3領域



**3. 共通必修履修科目の
内容と特徴**

現代の国語（2単位）
言語文化（2単位）

「現代の国語」の特徴

実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目

3 内容の取扱い

(1) 内容の〔思考力, 判断力, 表現力等〕における授業時数については, 次の事項に配慮するものとする。

ア 「A話すこと・聞くこと」に関する指導については, 20~30単位時間程度を配当するものとし, 計画的に指導すること。

イ 「B書くこと」に関する指導については, 30~40単位時間程度を配当するものとし, 計画的に指導すること。

ウ 「C読むこと」に関する指導については, 10~20単位時間程度を配当するものとし, 計画的に指導すること。

「現代の国語」の特徴

実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目

3 内容の取扱い

(4) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 内容の〔思考力, 判断力, 表現力等〕の「C読むこと」の教材は、現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章とすること。

※教材文種の限定

「現代の国語」の特徴

A (1)

オ **論点を共有し**，考えを広げたり深めたりしながら，話合いの目的，種類，状況に応じて，表現や進行など**話合いの仕方**や**結論の出し方**を工夫すること。

B (1)

ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，**根拠の示し方**や**説明の仕方**を**考える**とともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫すること。

C (1)

イ **目的に応じて**，**文章や図表**などに含まれている情報を相互に関係付けながら，**内容や書き手の意図**を**解釈**したり，**文章の構成**や**論理の展開**などについて**評価**したりするとともに，**自分の考えを深める**こと。

「話すこと・聞くこと」の実践事例

わかりやすい話し方入門－我が校の魅力を中学生に紹介する－

目標

目的や場面に応じて、的確に話す。



教材

ワークシート、学校パンフレット、学校紹介映像等

学習活動

紹介内容と方法の検討、紹介原稿の作成、発表、相互評価

(折居篤「わかりやすい話し方入門」大滝・幸田編著『変わる！高校国語の新しい理論と実践』大修館書店、2016)

「言語文化」の特徴

上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目

3 内容の取扱い

(1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。

イ 「B読むこと」の**古典に関する指導については、40～45単位時間程度**を配当するものとし、計画的に指導するとともに、古典における古文と漢文の割合は、一方に偏らないようにすること。その際、古典について解説した近代以降の文章などを活用するなどして、我が国の言語文化への理解を深めるよう指導を工夫すること。

ウ 「B読むこと」の**近代以降の文章に関する指導については、20単位時間程度**を配当するものとし、計画的に指導すること。その際、我が国の伝統と文化に関する近代以降の論理的な文章や古典に関連する近代以降の文学的な文章を活用するなどして、我が国の言語文化への理解を深めるよう指導を工夫すること。

「言語文化」の特徴

B 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ウ 文章の構成や展開，表現の仕方，表現の特色について**評価**すること。

エ 作品や文章の**成立した背景や他の作品などとの関係**を踏まえ，内容の解釈を深めること。

オ 作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの見方，感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について**自分の考えをもつ**こと。

言語文化に親しむ実践事例

日本の感性をたどる – 古典と近代以降の文章をつなげて読む –

目標

古典や現代の文章を読み比べ、ものの見方・感じ方を考える。

教材

『枕草子』「木の花は」（第34段）、桜が題材となっている古典、桜を詠んだ和歌、J-POPの歌詞等、

学習活動

ペア・ワーク、グループ学習、発表、振り返り

(小川一美・前掲書)



「現代の国語」と「言語文化」の「読むこと」

現代の国語

実社会で求められる読み

方法・技能に比重

目的に応じて

必要な情報を読んで判断し、考える

論説、評論、解説、条文、社説、図表等

言語文化

言語文化への関心を深める読み

内容・価値に比重

じっくり読み深める

時間軸や背景とともに作品を読む

「教材の読み取り」だけではなく、「主体的・対話的で、深い学び」を！

学習過程に基づく系統性

「C 読むこと」の場合（言語文化）

「構造と内容の把握」

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。

イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。

「精査・解釈」

ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。

エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。

「考えの形成・共有」

オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。

実社会で生きて働く話す能力・書く能力

伝統的な国語教育の表現観

自己表現

「ありのまま」を綴る
「自分らしさ」を表現する
言いたいことを話す・書く

人格修養のために

実社会に生きて働く表現能力観

自己呈示（表す自分／隠す自分）

社会的コミュニケーション
目的や相手意識・場面意識
求めに応じて話す・書く

円滑な社会活動のために

4. 単元デザインと 〔知識及び技能〕

教材準拠から指導目標準拠へ

〔知識及び技能〕の特徴



高校国語は 何を教え、 何を教えて いないのか

○大学新入生600名調査（島田、2017）

「国語総合」は大学に進学する生徒のほとんどが履修すると言ってよい科目であるが、授業の中で実際に学ばれる内容は、この科目が指導内容として掲げる「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のうち「**読むこと**」に偏る傾向がある、ということが確認できた。

（中略）

「言語活動」のうちでも「話すこと・聞くこと」に関する3項目—スピーチや説明をする、報告や発表をする、話し合いや討論をする—についてはどれも経験が乏しいという学生の実態が見えてくる。

また、相対的に学ぶ機会が多かったと言える「**読むこと**」の学習も、このような「言語活動」を通じて学ばれる機会は少なかったと推測できる。

（渡辺哲司・島田康行（2017）『ライティングの高大接続』 pp.29-32）

A先生

「話すこと・聞くこと」
年間20～30時間



これまでもやってい
なかったわけではないけど、
文章を読んで、生徒同士
で話し合わせたり、読み
終わった後に感想や意見
を書かせる機会を増やし
たいと思います。

「話し合い」を例に

A ゴミ問題についての話し合いで、論点を共有し妥当な結論に向かうための進行の役割の学習

→ 「話すこと・聞くこと」

B 「羅生門」を読んで、「下人の行方」について話し合っ**て**解釈を深める学習

→ 「読むこと」

※解釈を深めるため（目的）の話し合い（手段）

指導事項・言語活動・学習評価

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域

(1) 指導事項

目標 ↔ 評価



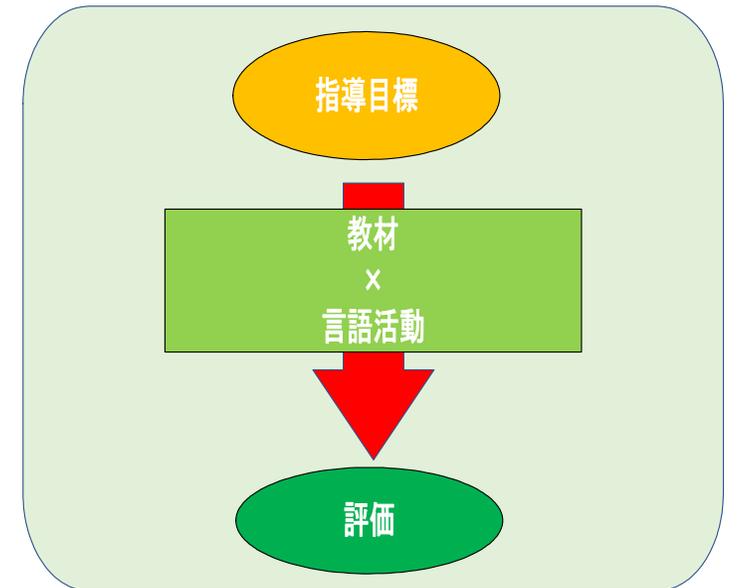
(2) 言語活動例

手段

話したり、書いたり、読んだりする活動

※活動と領域が混同されている現状

○単元デザインのイメージ



B先生

「話すこと・聞くこと」
年間20～30時間



指導事項と言語活動例の
違いはわかります。でも、
「話すこと・聞くこと」
で具体的に何を指導して
いいのかがわからず、
困っています。

知識及び技能

単元の指導計画 = (領域の指導事項 + 知識・技能) × 言語活動

例) 「現代の国語」

A (1) ウ **話し言葉の特徴を踏まえて話したり**, 場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど, 相手の理解が得られるように表現を工夫すること。

活用

+

知識・技能 (1) イ **話し言葉と書き言葉の特徴や役割, 表現の特色**を踏まえ, 正確さ, 分かりやすさ, 適切さ, 敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し, 使うこと。

習得

×

A (2) ア 自分の考えについて**スピーチ**をしたり, それを聞いて, 同意したり, 質問したり, 論拠を示して反論したりする活動。

知識及び技能

単元の指導計画 = (領域の指導事項 + 知識・技能) × 言語活動

例) 「現代の国語」

B (1) ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、**根拠の示し方や説明の仕方**を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。

+

活用

知識・技能 (2) イ **個別の情報と一般化された情報との関係**について理解すること。

×

習得

B (2) ウ 調べたことを整理して、**報告書や説明資料**などにまとめる活動。

必履修科目の知識及び技能

	現代の国語	言語文化
(1) 言葉の特徴や使い方	<ul style="list-style-type: none">・話し言葉と書き言葉、敬意・実社会に必要な語彙・文の組み立てや接続の仕方・比喩、例示、言い換え	<ul style="list-style-type: none">・我が国の言語文化に特徴的な語句・文章の意味と文脈・本歌取りや見立てなどの表現技法
(2) 情報の扱い方	<ul style="list-style-type: none">・主張と論拠・個別と一般・推論の仕方・情報の妥当性、信頼性・引用、出典の示し方	
(3) 我が国の言語文化	<ul style="list-style-type: none">・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用	<ul style="list-style-type: none">・我が国と外国文化の関係・作品の歴史的・文化的背景・文語のきまりや訓読のきまり・文字や言葉、文体の変化・言語文化の理解につながる読書

知識及び技能

現代の国語

(2) 情報の扱い方のに関する事項 (論理的思考)

小学校	1,2年生	共通と相違、事柄の順序	
	3,4年生	理由や例示、全体と中心	比較・分類、引用・出典
	5,6年生	原因と結果	関係付けの仕方、関係の表し方
中学校	1年生	原因と結果、意見と根拠	比較・分類、引用・出典
	2年生	意見と根拠、具体と抽象	関係の様々な表し方
	3年生	具体と抽象等	情報の信頼性
高等学校	現代の国語	主張と論拠、個別・一般	推論の仕方、情報の妥当性・信頼性、引用・出典
	言語文化	主張と前提・反証	情報の階層化、推論の仕方についての理解を深め使う

主張と根拠のつながりの吟味

○主張や意見には**根拠が必要だ**。

例) 小論文 (意見文) における構成や展開の指導

「なぜなら」「したがって」等、接続表現の指導

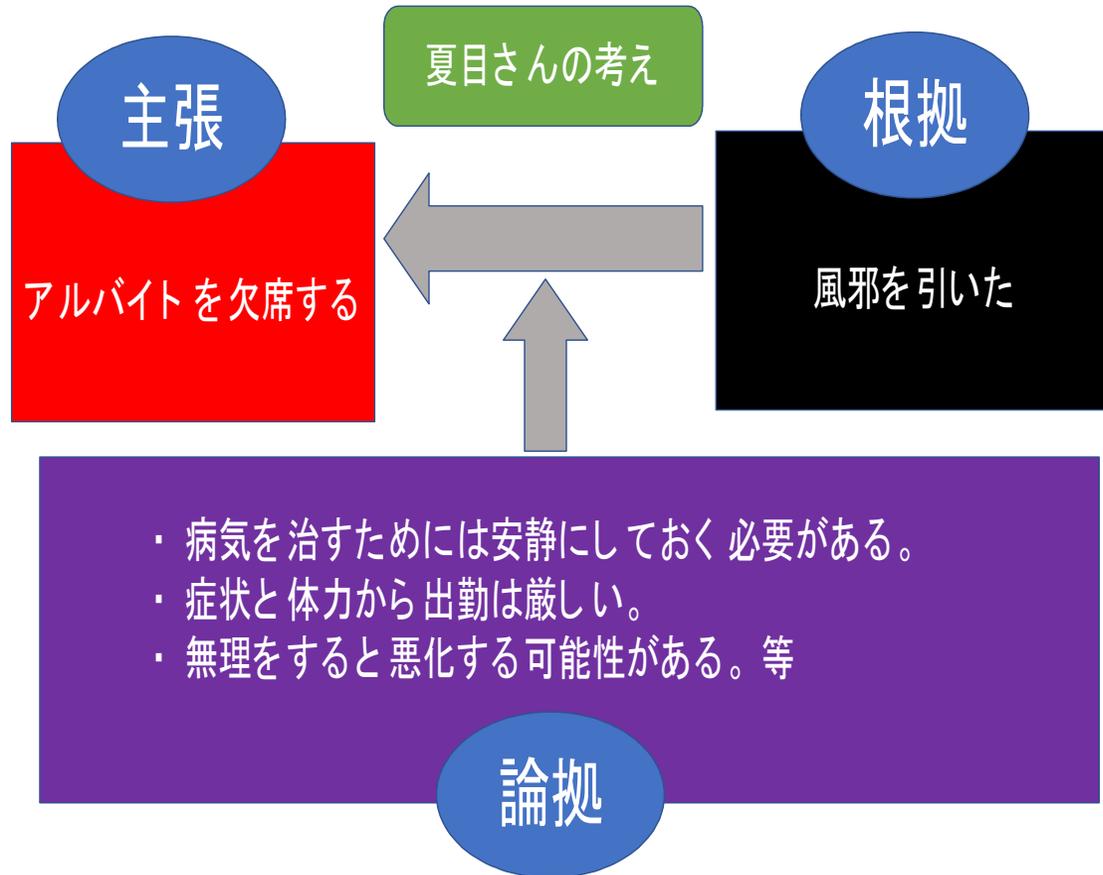


○根拠と主張の**つながりを意識・吟味する**。

例) あの夫婦は仲が良い。なぜなら、離婚していないからだ。

高齢ドライバーの事故が多発している。だから、すべての高齢者から免許を剥奪すべきだ。

三角ロジック



10周年イベントの当日、アルバイトの夏目さんから欠席メールが届いた。

「かぜをひいてしまったので、本日は休ませていただきます。」

アルバイト先の店長が怒ったのはなぜだろう。

※論拠（理由付け・暗黙の前）

推論の仕方

帰納的推論



帰納

個別の根拠から一般法則を見いだそうとする論証のこと。

得意技 推測力 発見

弱点 結論が正しいとは限らない。

例)

- 指定校推薦の A 校出身者は優秀だ。
指定校推薦の B 校出身者も優秀だ。
指定校推薦の C 校出身者も優秀だ。
したがって、指定校出身者は優秀だ。
- たくさんのフルーツが入った箱に手を入れたらミカンが出てきた。
次も、ミカンが出てきた。
だから、三回目もミカンがでるだろう。

推論の仕方

演繹的推論



演繹

前提が真ならば、結論もかならず真となる論証のこと。

得意技 妥当性 正しさ

弱点 新しい情報・内容の付加

例)

- すべての哺乳類には脊椎がある。
人間は哺乳類だ。
だから、人間には脊椎がある。
- 毎週金曜日は、売店のパンが必ず半額になる。
今日は金曜日だ。
だから、お昼ご飯代が安くすむ。

必履修科目の知識及び技能

	現代の国語	言語文化
(1) 言葉の特徴や使い方	<ul style="list-style-type: none">・話し言葉と書き言葉、敬意・実社会に必要な語彙・文の組み立てや接続の仕方・比喩、例示、言い換え	<ul style="list-style-type: none">・我が国の言語文化に特徴的な語句・文章の意味と文脈・本歌取りや見立てなどの表現技法
(2) 情報の扱い方	<ul style="list-style-type: none">・主張と論拠・個別と一般・推論の仕方・情報の妥当性、信頼性・引用、出典の示し方	
(3) 我が国の言語文化	<ul style="list-style-type: none">・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用	<ul style="list-style-type: none">・我が国と外国文化の関係・作品の歴史的・文化的背景・文語のきまりや訓読のきまり・文字や言葉、文体の変化・言語文化の理解につながる読書

カリキュラム・マネジメントの要

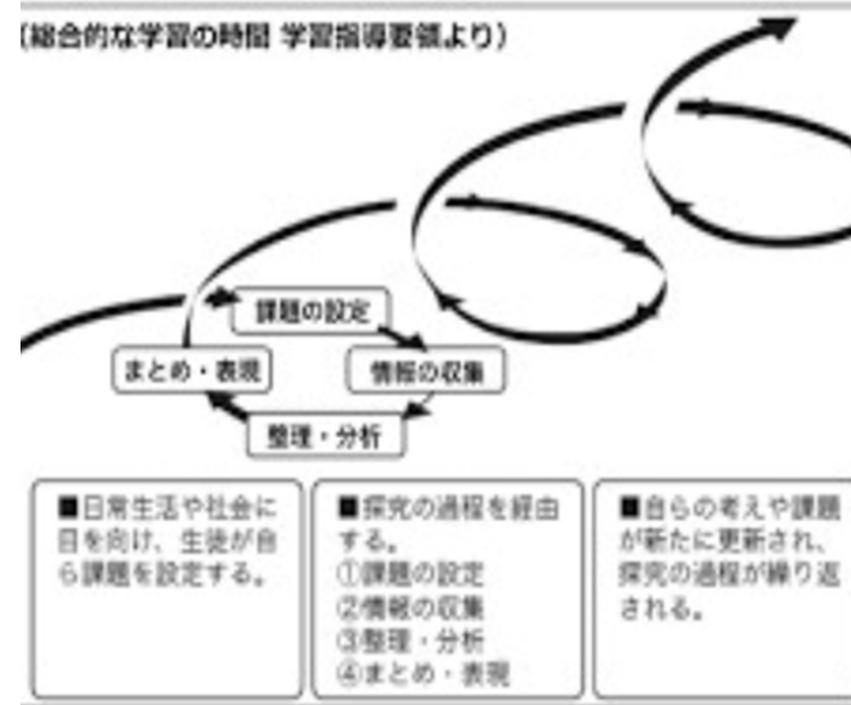
○国語科に期待されるもの

- 言語は生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、言語能力は全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるもの
- 言語能力を育成する中核的な教科である国語科を要として各教科等において言語活動の充実を図ること

(「総則」解説、121～122頁)

深究的な学習における生徒の学習の姿

(総合的な学習の時間 学習指導要領より)



(2) 我が国の言語文化に関する事項

- ア 我が国と外国文化との関係
- イ 作品の歴史的・文化的背景
- ウ 文語のきまりや訓読のきまり
- エ 文字や言葉
- オ 文体の変化
- カ 言語文化の理解につながる読書

文語のきまりや訓読のきまり

古典の世界に親しむことを目指し、文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などを、古典を読むために必要なものに限定している。古典を読むとは、**古典の原文を逐語的に現代語訳にすることではなく、〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の（1）の指導事項を身に付けること**を指している。そのためには、文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などを断片的な知識として理解することのみが目的とならないよう、**原文に加え、内容の取扱いの（4）のイに示しているとおり、理解しやすいように教材を工夫したり、指導の方法を工夫したりする必要がある。**

（解説、p. 119）

作品の歴史的・文化的背景

言語文化

エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。

文学国語

オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。

キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。

古典探究

エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。

キ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。

作品の歴史的・文化的背景 単元例

○成立した時代の異なる作品を読み比べる – 浦島説話 –

目標

エ作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。

教材

「御伽草子」「俊頼髓脳」「丹後国風土記」「万葉集」

学習活動

グループワークによる比べ読み、発表、レポート

留意点

生徒の実態に応じて、辞書や現代語訳を提示する。

中国や韓国等、他国に伝わる浦島説話も調べさせる。

(大元理絵氏の実践提案・大滝・高木編著『高校の国語授業はこう変わる』三省堂、2018)



5. コロナ禍で加速するICTの波

**GIGA構想とデジタル教科書
コロナ禍のオンライン授業**



「1人1台端末・高速通信環境」がもたらす学びの変容イメージ

GIGAスクール 構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、**多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する**
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、**教師・児童生徒の力を最大限に引き出す**

これまでの教育実践の蓄積

× ICT =

**学習活動の一層充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**

「1人1台端末」ではない環境

- ・ 教師が電子黒板等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる



学びの
深化

- ・ 全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）



学びの
転換

- ・ グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい（積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」に）

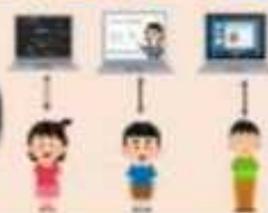


「1人1台端末」の環境

- ・ 教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる
→ 子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に



- ・ 各人が同時に別々の内容を学習できる
- ・ 各人の学習履歴が自動的に記録される
→ 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に



- ・ 一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる
- ・ 各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる
→ 全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる



